

川崎市市民ミュージアムの今後のあり方について
—答申—

2021（令和3）年7月

川崎市文化芸術振興会議

目 次

はじめに	1
I 答申	2
II 答申に至る考え方	3
1 新たなミュージアムの使命等について	3
(1) 基本的な使命	
(2) めざす姿	
2 めざす姿に向けた取組	4
(1) 「都市川崎の変遷を伝え、市民と未来を共有する」ための取組	
(2) 「人と人をつなぎ、市民とともに成長・発展する」ための取組	
(3) 「文化芸術の発展や向上に貢献し、その魅力を発信する」ための取組	
(4) 「誰もが文化芸術を楽しみ、学び、好奇心を駆りたてられる」ための取組	
3 施設の考え方	6
(1) 現施設について	
(2) 新たな施設について	
4 施設の設置に向けて	7
(1) 事業・展示に関すること	
(2) 施設・設備に関すること	
(3) 地域社会への貢献に関すること	
参考資料	8
I 諮問内容	9
II 委員名簿	11
III あり方部会経過	12
IV 市民アンケート結果	13

はじめに

川崎市市民ミュージアム（以下「市民ミュージアム」という。）は、1988（昭和63）年11月に「都市と人間」をテーマに開館され、都市の発展過程やそこで生まれ育った文化を見つめるための作品及び資料を収集、展示、調査研究し、博物館と美術館の機能をあわせ持つ複合文化施設として、川崎市の文化芸術施策において重要な役割を担ってきました。

過去には、利用者の大幅な減少や稼働率の低さから、包括外部監査により厳しい指摘を受けたこともありましたが、改革基本計画や新たな取組方針の策定など、市民ミュージアムがめざす姿の実現に向け取り組み、さらに、2017（平成29）年度からは指定管理者制度を導入し、時宜を得た企画や効果的な宣伝広報などの指定管理者ならではの取組の結果、従来に比べ来場者数が大幅に増加し、川崎市の文化施設の中でも大きな存在感を示してきました。

市民ミュージアムは、開館後30数年以上が経過し、雨漏り等の設備の経年劣化に加え、2019（令和元）年に、想定浸水深が引き上げられた洪水ハザードマップへの対応等について川崎市内部で検討を始めた矢先に、同年10月の令和元年東日本台風により施設・設備や収蔵品が被災し、長期の休館を余儀なくされてしまいました。収蔵庫すべてが浸水し、収蔵品約26万点のうち約22万9千点が被災するなどその被害は甚大なものであり、現在も被災収蔵品のレスキューが続いています。

以上のように、経年劣化等への対応や、施設・設備、収蔵品の被災への対応など、市民ミュージアムの今後のあり方を中心に、様々な課題を整理する必要があるとして、2020（令和2）年5月28日、川崎市長から川崎市文化芸術振興会議に対し、「川崎市市民ミュージアムの復旧・復興に向けたあり方等について」の諮問がされました。同年7月28日、博物館分野、美術館分野、まちづくり・建築分野及び文化政策の各分野の有識者で構成される「川崎市文化芸術振興会議市民ミュージアムあり方検討部会」（以下「あり方検討部会」という。）を設置し、川崎市における博物館、美術館の役割や求められる機能等について、市民アンケートも行いながら、全7回にわたり検討し、その結果を取りまとめましたので、ここに答申します。

昨今、経済社会の大きな変化に加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあって、人々が先行きの見えない不安を抱えています。このような状況の中、文化芸術は人々の健康や社会全体の幸福につながるものとして再認識され、その役割への期待も大きく高まっています。市民ミュージアムは、博物館、美術館機能の融合とともに、市民や、関連する活動団体、川崎市に点在する文化的な資源と連携することで、地域社会に大きく貢献する可能性を持っています。本部会では、市民ミュージアムのこれまでのめざす姿等に基づき活動してきた成果やネットワーク、ノウハウを最大限に活かし、多様な活動を展開することで、これからの川崎市民の生活を心豊かなものにするためにどうしたらよいのか、その方向性に焦点を当て、改めてしっかり議論、検討することとしました。

また、あり方検討部会では、毎回活発な議論が交わされ、「Ⅰ 答申」に記載した内容以外にも多くの貴重な意見や提案が出されました。これらの意見等は、「Ⅰ 答申」を導くために必要なものであり、その含意もできる限り読み取れるよう網羅的に「Ⅱ 答申に至る考え方」に付記しています。

川崎市は、本答申のみでなく、あり方検討部会での議論の内容やその背景になる考え方も踏まえた上で具体化に取り組んでいただきたいと思います。

最後に、川崎市の文化芸術の創造拠点として、未来を照らし、市民にとって誇らしく、愛され親しまれるミュージアムが実現されることを心から願っております。

I 答申

市長からの諮問では、博物館、美術館のそれぞれの機能の整理、検討を求められましたが、博物館と美術館の使命や果たす役割は重なる部分が多く、両機能をあわせ持つことによって大きなシナジー効果が期待できること、さらに市民ミュージアムは、その開館当時から他のミュージアムでは扱われなかった写真、漫画、映像などの分野を取り込み発展させるなど、先駆的かつ先進的な取組が評価されていました。これまでの成果を尊重するとともに、将来の可能性を高く評価し、あり方検討部会としては博物館、美術館を分けて議論するのではなく、分野を融合した「ミュージアム」として検討しました。

今後も社会経済状況や市民ニーズの大きな変化が予測される中で、川崎市にとって新たな市民ミュージアムがどのような使命を果たす施設であるべきなのか、議論の中から浮かび上がったのは、博物館、美術館機能の融合による強みを活かし、市民や地域と有機的に連携することを通じて進化を続け、未来につながるミュージアムです。本答申では、この活動の方向性を「新たなミュージアムの今後のあり方」としてまとめました。そして、市民ミュージアムがどのような活動を誰と行うかによって、必要とされる施設や設備、加えて立地条件も見えてくると考えられます。

市域が広くはなく、市街化率も極めて高い川崎市では、浸水リスクや土砂災害などの災害リスクの少ない地域は限られています。また、新型コロナウイルス感染症等の影響により、財政もこれまでにない厳しい状況が続くと想定されます。こういった立地面、財政面の制約を踏まえながらも、本答申は、「新たなミュージアムの今後のあり方」に沿った具体的な取組の検討を望むものです。

新たなミュージアムの今後のあり方（活動）

- 1 時代の変遷とともに変わりゆく都市川崎の歴史と文化を記録し、現在も含めて未来へ継承する
- 2 誰もが心豊かに暮らせる持続可能なまちづくりに向けて、多様な価値を生み出す文化芸術を活用する
- 3 文化芸術を楽しむ、学び、体験できることで、人々の好奇心や探求心を刺激する
- 4 多彩な文化芸術に出会い、様々な創作活動や表現活動ができる環境をつくり、人々の創造性や文化的感性を育む
- 5 年齢や性別、国籍、障害の有無等に関わらず、生涯を通じた学びの機会を提供し、多様な文化への理解を深める
- 6 文化芸術を通じ、市民や団体、他の文化施設と連携・協働した活動を展開し、多様なつながりを生み出す
- 7 教育機関等との連携などを通じて若い世代が関心を持つ事業を展開するとともに、芸術家の育成や文化芸術活動の支援を行う
- 8 様々な角度から文化芸術を支える人材、さらには、地域社会の担い手となる人材を育成する
- 9 令和元年東日本台風による被災の事実を次代に伝える

新たなミュージアムの今後のあり方（施設）

- 1 現施設でのミュージアム機能の再開は行わない
- 2 新たな施設は、浸水の恐れのあるエリアや土砂災害警戒区域等を避けた場所、利便性を考慮した場所で検討する

Ⅱ 答申に至る考え方

1 新たなミュージアムの使命等について

新たなミュージアムの活動の根幹となる「基本的な使命」と、その使命に基づき、どのようなミュージアムを目指すのかを示した「めざす姿」を、次のとおりまとめました。

(1) 基本的な使命

① 都市川崎のあゆみを未来につなぎ、文化芸術の未来を育む

- ・ 時代の変遷とともに変貌する都市川崎の過去を知り、現在を記録し、未来へと引き継いでいく。
- ・ 市民に寄り添う市民のためのミュージアムとして、市民とともに成長・発展していく。
- ・ 市民の創造性や文化的感性を育み、文化芸術の発展につなげる。

② 文化芸術により生み出される多様な価値を活かした地域社会をつくる

- ・ 誰もが文化芸術を楽しみ、学び、体験できる機会を提供し、生き生きと心豊かに暮らせるまちづくりに寄与する。
- ・ 市域の文化芸術の振興により、創造的で持続的なまちづくりに貢献する。
- ・ 文化芸術を通じた人と人との多様なつながりを生み出し、コミュニティの形成と活性化に資する。

(2) めざす姿

① 都市川崎の変遷を伝え、市民と未来を共有する

- ・ 市民生活に重きを置いて、過去と現在を将来にわたって引き継ぎ続ける。
- ・ 観賞する人が追体験することで、川崎市の都市化の過程を捉えなおす。
- ・ 多様な人々の営みや市内各地の地域性を市民が再発見・再評価を可能とする。

② 人と人をつなぎ、市民とともに成長・発展する

- ・ 文化芸術を通じ、コミュニティの形成と活性化を図る。
- ・ 市民をはじめ、施設等が培った知識や技術、経験等を次代へ継承する。
- ・ 時代の変遷や社会環境、価値観等の変化に応じ、成長・発展し続ける。

③ 文化芸術の発展や向上に貢献し、その魅力を発信する

- ・ 歴史文化資産、多彩な文化芸術資源の研究成果を発信する。
- ・ 多彩な文化芸術に触れることで、市民の創造性や文化的感性を育み、市域の文化芸術の魅力を発信する。
- ・ 市民や団体の文化芸術活動の活性化を図り、誰もが文化芸術に触れることができるよう裾野を広げる。

④ 誰もが文化芸術を楽しみ、学び、好奇心を駆りたてられる環境をつくる

- ・ あらゆる人に対して生涯を通じた学びの機会を提供し、文化芸術活動を通じて多様な文化への理解を育む。
- ・ 文化芸術を創造・体験することの楽しさを広く伝え、市民の好奇心や探求心を駆りたてる。

2 めざす姿に向けた取組

新たなミュージアムの使命等を達成するため、今後、具体的な博物館事業、美術館事業を検討するうえで、事業の取組を次のとおり整理しました。

(1)「都市川崎の変遷を伝え、市民と未来を共有する」ための取組

① 現在の川崎の次代への継承

- ・ 現在の川崎の世相を反映した資料・作品の調査研究に取り組む。
- ・ 時代の変遷とともに変貌し続ける川崎の姿を、被災の経験も含めて記録し、次代に継承する。

② 都市川崎の振返り

- ・ 都市川崎の変遷や、市域の多彩な文化や多様な地域性の魅力を伝える。
- ・ 川崎市とゆかりのある全ての人が、自らの軌跡を発見できる取組を行う。

③ 歴史を知り課題解決意識の醸成

- ・ 地域の歴史や伝統文化のみならず、環境問題など負の側面も含めた都市川崎の歴史を学ぶことにより、現在抱える課題を認識し、より良い未来のためにどのように解決すべきかを考える力を育む。

(2)「人と人をつなぎ、市民とともに成長・発展する」ための取組

① コミュニティの形成と活性化

- ・ 文化芸術を通じたコミュニティを形成する環境を整備して多様なつながりを生み出し、発展させていく。

② 知識や技術、経験等の次代への継承

- ・ 知識や技術、経験のほか、地域の発展や変遷、人々の生活や文化などの地域資源を次代に継承するために、市民や団体とのネットワークを形成し、連携・協働した活動を行う。

③ 持続的に発展する施設づくり

- ・ 時代や社会環境の変化により生まれる新たな表現手法や作品を取り扱うなど、新たな価値や魅力を生み出す。
- ・ 社会的障壁を取り払い、市民一人ひとりが尊重され、能力を発揮できる取組を行う。

(3)「文化芸術の発展や向上に貢献し、その魅力を発信する」ための取組

① 調査研究成果の市民への還元

- ・ 川崎の成り立ちを物語る考古、歴史、民俗資料や川崎市ゆかりの作家の作品等の調査研究に取り組み、その成果を市民に還元する。

② 文化芸術活動の振興

- ・ 資料・作品の展示だけではなく、様々な創作活動や表現活動の場としての役割を担う。
- ・ 先進の環境・情報技術の積極的な活用や誰もがアクセス可能な環境を整備する。

③ 川崎市域全体の文化芸術の魅力の増進

- ・ 地域の活性化のために、市内の文化施設や活動団体等と連携を図る。

(4) 「誰もが文化芸術を楽しみ、学び、好奇心を駆りたてられる環境をつくる」ための取組

① 創造性と多様性を有する文化芸術の普及

- ・ 本市ゆかりの芸術家の育成及び文化芸術活動の支援を行う。
- ・ 誰もが文化芸術を身近に感じ、体験・体感することで、自由で多彩なアイデアや創作活動や表現活動が生まれる機会を提供する。

② 文化芸術を支える人材の育成

- ・ 教育機関と連携し、活動や研究の場を提供するとともに、文化芸術を様々な角度から支える人材を育成する。
- ・ 次代の社会を担う子どもや若者の好奇心を刺激するために、若い世代が関心を持ちやすい、時代の潮流に乗ったテーマを取り扱うなど、幅広い文化芸術活動を行う。

3 施設の考え方

現施設の被害状況や復旧に係る費用、立地場所等の課題等を共有し、次のとおり整理しました。

(1) 現施設について

現施設を復旧するには概算で約25億8千万円となる多額の費用がかかる見込みであることに加え、現施設が設置されている場所は、2018（平成30）年に改定された洪水ハザードマップ上で想定浸水深が5～10mとなっており、現施設の2階まで浸水する恐れがあります。そのため、地階にある収蔵庫等を3階に整備する必要があるものの、構造耐力上3階への整備が困難なことなどの課題が確認されました。

よって、現施設でのミュージアム機能の再開は行わず、できる限り被災リスクの少ない場所での再建を行うことが必要であるとあり方検討部会としては整理しました。

(2) 新たな施設について

新たな施設の候補地は決まっていない状況ですが、再建にあたり何よりも優先すべきことは、市民の貴重な財産であり、未来に継承すべき収蔵品を被災させないことと考えます。

そのため、新たな施設は、浸水の恐れのあるエリアや土砂災害警戒区域等を避けた立地に建設することが望まれます。また、展示室と収蔵庫は、運営面から見て同じ施設内に整備することが望ましいですが、施設の規模や収蔵庫の狭小化等の課題に対応するために別置することは妨げません。

施設の規模等については、今後検討される事業計画等の内容を踏まえながら、「答申」に基づく活動が可能な施設整備を検討し、どのような活動を誰が行うかを考え、敷地や施設を最大限活用する必要があると考えます。

その際、市民アンケートでも多くの回答があった公共交通等の利便性、緑豊かで開放感がある屋外環境なども可能な範囲で考慮する必要があるものと考えます。

4 施設の設置に向けて

新たな施設の設置に向けて、考慮すべき項目を次のとおり示します。

(1) 事業・展示に関すること

- ・ 今回の台風被害を風化させないよう、収蔵品等が甚大な被害を受けた事実を記録し、継承する取組を行うとともに、新たな施設が整備される間も、修復過程や状況を市民に公開・発信する必要があります。
- ・ 川崎市全体の文化芸術施策の推進に資するため、市内の他の文化施設との連携や歴史文化資源を活用した取組が望まれます。
- ・ 被災収蔵品の取扱やアーカイブズ学[※]を踏まえた新たな台帳整備により、適切な収蔵品管理を行うほか、活動内容にふさわしい作品、資料等を収集していくことが必要と考えます。

(2) 施設・設備に関すること

- ・ 諸室構成や設備の検討にあたっては、市民や関連する団体、博物館、美術館の現場で働く専門家を含め、多様な人たちの意見をいただき、インクルーシブなデザインの考え方を取り入れることが大切であると考えます。
- ・ 新たな施設が市民等の活動の場や、様々な創作活動や表現活動に対応できる場になる必要があると考えます。

(3) 地域社会への貢献に関すること

- ・ 川崎市は、誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくりを目指す「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」や、全ての市民が不当な差別を受けることなく、個人として尊重され、生き生きと暮らすことができる人権尊重のまちづくりを推進していくための「差別のない人権尊重のまちづくり条例」の制定、他にも「地域包括ケアシステム推進ビジョン」やコミュニティ施策の推進など、多様性と社会的包摂の進んだまちづくりに取り組んでいます。新たなミュージアムにおいても、こうした川崎市らしい施策を踏まえ、地域社会への貢献を念頭に置いた取組が必要と考えます。

※ アーカイブズ学 … アーカイブズとは、ある法人あるいは個人が、その活動の過程で作成、受領し、さらに組織固有の必要のために、それを形成させる主体あるいは後継者によって保管されるか、あるいはアーカイブズ上の価値ゆえに、適正な資料保管組織に移管される資料の総体を指し、アーカイブズ学とは、これらを適正に管理するとともに、利活用を可能にするための理論や実践的な方法論について研究する学問のことを言う。

参 考 資 料

I 諮問内容

2 川市文第 1 5 5 号

令和 2 年 5 月 2 8 日

川崎市文化芸術振興会議

会長 垣内 恵美子 様

川崎市長 福田 紀彦

川崎市市民ミュージアムの復旧・復興に向けたあり方等について（諮問）

川崎市文化芸術振興条例（平成 17 年 3 月 24 日条例第 8 号）第 9 条第 1 項の規定に基づき、次の事項について諮問いたします。

1 諮問件名

川崎市市民ミュージアムの復旧・復興に向けたあり方等について

2 概要

別添「川崎市市民ミュージアムの復旧・復興に向けたあり方等について（概要）」のとおり。

（市民文化局市民文化振興室 植木担当）

電話（044）200-0918

FAX（044）200-3248

Eメール 25bunka@city.kawasaki.jp

川崎市市民ミュージアムの復旧・復興に向けたあり方等について（概要）

1 目的と経緯

昭和 63 年 11 月に「都市と人間」をテーマに開館した「川崎市市民ミュージアム」（以下「ミュージアム」という。）は、都市の発展過程やそこで生まれ育った文化を見つめるための資料及び作品を収集・展示・調査・研究してきた。過去には、利用者の大幅な減少や稼働率の低さから、包括外部監査により、厳しい指摘を受けたこともあったが、改革基本計画や新たな取組方針の策定など、ミュージアムがめざす姿の推進を図り、さらに、平成 29 年度から指定管理者制度を導入（令和 2 年度が 4 年目）したことにより、時宜を得た企画や効果的な営業・広報などの指定管理者ならではの取組により、直営時代を大きく上回る来場者数を確保している。

しかしながら、開館から 31 年が経過し、雨漏りや部品落下、設備の経年劣化など、利用者の安全にも影響を及ぼしかねない状況への早急な対応が不可欠として、令和元年に全庁的に主要課題として共有してきたところである。また、令和元年東日本台風により施設・設備や収蔵品が被災したことで、ミュージアムの復旧・復興に向けて、様々な課題を整理する必要があることから、ミュージアムの今後のあり方等について審議していただきたい。

2 施設概要

名 称：川崎市市民ミュージアム
所 在 地：川崎市中原区等々力 1－2
開 館：昭和 63 年 11 月
運営管理：アクティオ・東急コミュニティー共同事業体
収蔵品数：約 259,800 点（平成 31 年 3 月 31 日時点）
入館者数：302,999 人（平成 30 年度）

3 主な検討内容

- (1) 川崎市市民ミュージアムの復旧・復興に向けたあり方について
- (2) その他

4 スケジュール（予定）

令和 2 年 7 月以降 会議（部会を想定）を 7 回程度開催し、議論・検討
令和 3 年夏頃（予定） 答申

Ⅱ 委員名簿

(敬称略:五十音順 令和3年7月)

氏 名	現 職
おおはら かずおき 大 原 一 興	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授
かきうち え み こ 垣内 恵美子 (部会長)	政策研究大学院大学教授 川崎市文化芸術振興会議会長
かなやま よしあき 金 山 喜昭	法政大学キャリアデザイン学部教授
さとう しんや 佐藤 慎也	日本大学理工学部教授 八戸市美術館館長
さわらぎ の い 榎 木 野衣	多摩美術大学美術学部教授
すぎうら さちこ 杉浦 幸子	武蔵野美術大学芸術文化学科教授 川崎市文化芸術振興会議施設部会委員
たなか ゆうじ 田中 裕二	静岡文化芸術大学文化政策学部准教授

Ⅲ あり方検討部会の経緯

日時	会議名	主な内容
令和2年 7月28日	第1回川崎市文化芸術振興会議 市民ミュージアムあり方検討部会	・市民ミュージアムあり方検討部会について ・市民ミュージアムの活動について ・令和元年東日本台風による被害の概要について ・市民ミュージアム収蔵品レスキューの状況について ・市民ミュージアムが抱える課題について ・博物館、美術館に関する各種調査について
9月29日	第2回川崎市文化芸術振興会議 市民ミュージアムあり方検討部会	・市民ミュージアムの役割 ・全国の博物館及び美術館の動向とその考察 ・これまでの市民ミュージアムの活動及び課題 ・現施設について ・現施設を活用する場合の整備手法について ・市民アンケートについて
11月16日	第3回川崎市文化芸術振興会議 市民ミュージアムあり方検討部会	・市民アンケートの結果について ・博物館及び美術館の検討ポイント ・現施設について
令和3年 3月26日	第4回川崎市文化芸術振興会議 市民ミュージアムあり方検討部会	・川崎市市民ミュージアムのあり方等に関する答申骨子（案）について ・新たな博物館、美術館の使命について
4月28日	第5回川崎市文化芸術振興会議 市民ミュージアムあり方検討部会	・川崎市市民ミュージアムのあり方等に関する答申骨子（案）について ・新たな博物館、美術館の使命について ・めざす姿、独自の姿勢に向けた方向性について
5月25日	第6回川崎市文化芸術振興会議 市民ミュージアムあり方検討部会	・新たな博物館、美術館の使命について ・めざす姿、独自の姿勢に向けた方向性について ・施設の考え方について
6月30日	第7回川崎市文化芸術振興会議 市民ミュージアムあり方検討部会	・答申（案）について

川崎市市民ミュージアムに関する 市民アンケート 報告書

令和2年11月

川崎市

調査概要

① 目的

市民ミュージアムの今後のあり方を検討するにあたり、興味のある方だけではなく、市民ミュージアムに訪れたことがない方も含めて幅広い層から回答を募ると同時に、次世代を担う若者（中高生）や、障がいのある方に意見を伺い、多面的に市民の意識やニーズを明らかにすることを目的とする。

② 調査期間 2020（令和2）年9月18日～10月9日

③ 調査方法 調査票郵送配布回収、無記名自記式

④ 対象者 市内在住の18歳以上の市民（障がい者含む）、外国人 中学生（特別支援級含む）、高校生

⑤ 調査地域 市内全域（各区で均等に配布）

⑥ 対象者抽出方法

- 住民基本台帳より無作為抽出
- 協力組織・学校を通じて配布

⑦ 対象別配布数・回答数・回答率

18歳以上の市民

対象	配布数	回収数	回収率
一般	3,500	1,533	43.8%
内、外国人	110	20	18.2%

協力組織・学校を通じた配布・回収

対象	配布数	回収数
中学生 (特別支援級含む)	150	150
高校生	125	125
障がい者	53	53
計	328	328

⑧ 属性別回答者数

年齢別

年齢	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答・無効回答
回答者数	1,861	305	123	248	285	313	239	346	2
構成比	100.0%	16.4%	6.6%	13.3%	15.3%	16.8%	12.8%	18.6%	0.1%

男女別

性別	全体	男性	女性	その他	無回答・無効回答
回答者数	1,861	791	1,042	3	25
構成比	100.0%	42.5%	56.0%	0.2%	1.3%

居住区別

居住区	全体	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	無回答・無効回答
回答者数	1,861	250	266	243	304	270	227	293	8
構成比	100.0%	13.4%	14.3%	13.1%	16.3%	14.5%	12.2%	15.7%	0.4%

職業別

職業	回答者数	構成比
全体	1,861	100.0%
1. 中学生・高校生	282	15.2%
2. 大学生・大学院生・専門学校生	46	2.5%
3. 自営業・フリーランス	97	5.2%
4. 会社員・団体職員・公務員（役員・パート・臨時・派遣含む）	835	44.9%
5. 専業主婦・主夫	265	14.2%
6. 無職（定年後含む）	271	14.6%
7. その他	61	3.3%
無回答・無効回答	4	0.2%

調査結果概要 1

これまでの
市民ミュージアムについて

博物館・美術館への関心度

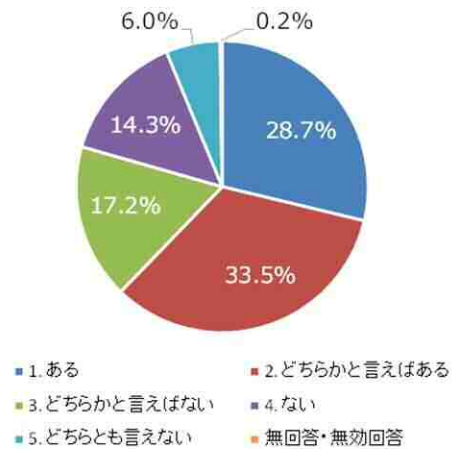
普段から博物館や美術館に関心のある人は60%以上

「ある」「どちらかと言えばある」を合計すると、回答者の過半数にあたる62.2%が関心があると回答しています。

年齢別でみると、20～30歳代は約63%、40歳代以上では67.0%以上（70歳代除く）となっています。

関心の度合いに違いはありますが、多くの人が博物館・美術館に関心を持っています。

【問】 あなたは普段、博物館や美術館に興味がありますか？



市民ミュージアムの来館経験・認知度

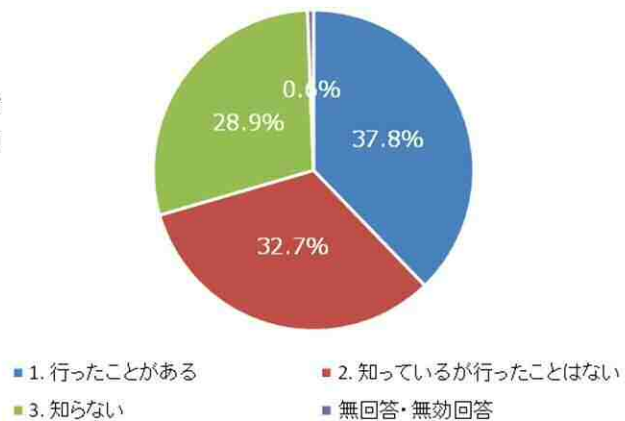
市民ミュージアムに「行ったことがある」人は37.8%

「行ったことがない」「知らない」人は30%前後

回答者の37.8%が「行ったことがある」と回答し、「行ったことがない」「知らない」と回答した人とはそれぞれ30%前後となっています。

年齢別でみると、「行ったことがある」人は20～30歳代が30%以下と他の年齢に比べて低く、20歳代の48.8%が「知らない」と回答しています。

【問】 市民ミュージアムに行ったことがありますか？



来館回数

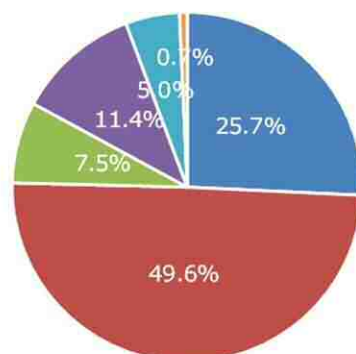
来館回数は2～5回が最も多く全体の約50%、6回以上は約20%

「行ったことがある」人の来館回数は、2～5回が49.6%で最も多く、6～9回の7.5%、10回以上の11.4%を合わせると、68.5%の人が2回以上、来館している結果となっています。

来館回数は年齢や関心度に比例して多くなる傾向にあります。

居住区別でみると、中原区居住者は6～9回が8.4%、10回以上が21.7%となっており、「行ったことがある」人の30.1%が6回以上のリピート来館者となっています。

【問】 これまでに何回、行きましたか？



■ 1回 ■ 2～5回 ■ 6～9回 ■ 10回以上 ■ わからない ■ 無回答・無効回答

行ったことがない理由

「具体的に何があるのかわからない」が54.8%で最も多く、次いで「行きにくい場所にある」が37.8%

「具体的に何があるのかわからない」が最も多く、回答者の半数以上の54.8%が回答しています。次いで「行きにくい場所にある」「時間がない」が続いています。

興味の有無等よりも、情報発信や立地、交通アクセスが上位という結果になりました。

【問】 行ったことがない理由は何ですか？



「その他」の自由回答（全78件）では、遠い・交通アクセスが悪い（13件）、内容に興味がない（12件）、何をやっているかわからない（7件）、場所を知らない（7件）などの回答がありました。

常設展と企画展は来館者の約80%が利用、 常設展は利用者の約55%、企画展は同約70%が満足

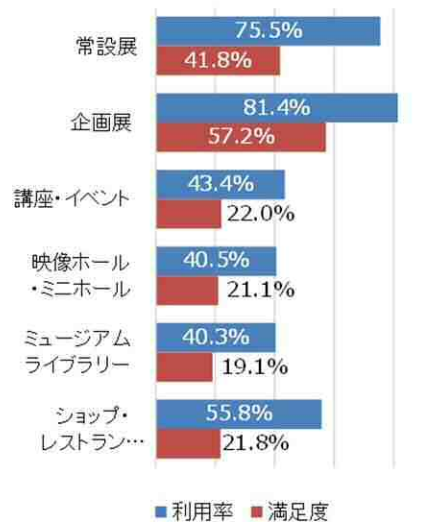
常設展・企画展の利用率（来館者の内、当該施設を利用した人の割合※1）は80%前後となっています。満足度※2は常設展が約42%、企画展が約57%となっており、これを利用率と満足度の比でみると、常設展で利用者の約55%、企画展で同約70%が満足（「大変良かった」または「良かった」と回答）したことになります。

その他の施設の利用率は、約40%から約55%となっています。満足度は20%前後となっており、利用者の約40%～約50%が満足という結果になっています。

※1 利用率：「利用していない・記憶していない」と「無回答・無効回答」の合計を除く比率

※2 満足度：「大変良かった」「良かった」の合計

【問】市民ミュージアムの満足度はいかがでしたか？



利用率や満足度は年齢により違い

年齢別の利用率や満足度は、常設展は10歳代と40歳代以上、企画展は40歳代以下（20歳代を除く）の満足度が高いという特徴があります。また、その他施設の利用率は40.3～55.8%、10～40歳代の満足度が高い結果となっています。

	常設展	企画展・アートギャラリー	その他施設 ※
利用率	● 75.5% ● 20～30歳代約60～70%。60歳代86.0%。	● 81.4% ● 30歳代以上は約80～85%で一定	● 40.3%～55.8%
満足度	● 41.8%(利用者の約55%) ● 20～30歳代が30%台前半でやや低い。関心度別では関心度に比例して高い。	● 57.2%(利用者の約70%) ● 10歳代(60.0%)、30歳代(58.5%)及び女性(63.8%)の満足度が高い。	● 20%前後(利用者の約40%～50%) ● 「大変良かった」は10～40歳代が10%前後で比較的高い。

※ 講座・イベント/映像ホール・ミニホール/ミュージアムライブラリー/ショップ・レストラン・研修室等

調査結果概要 2

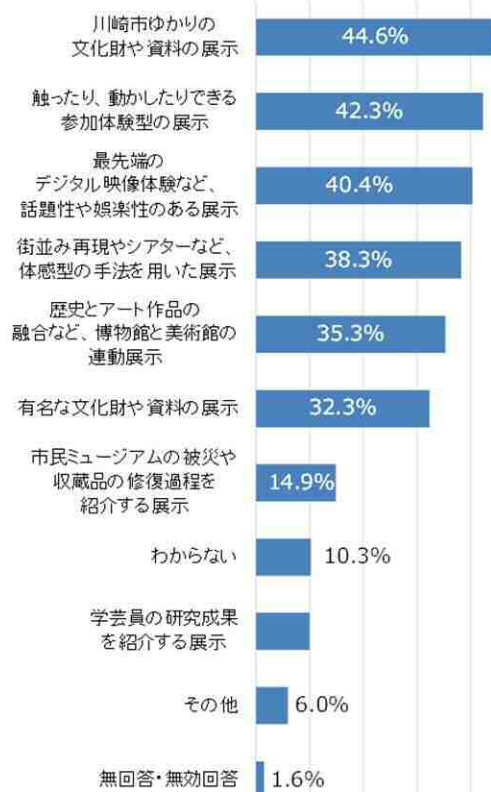
これからの
市民ミュージアムについて

博物館は川崎市ゆかりの文化財や参加体験型の展示、
美術館は有名な作家や作品、川崎市ゆかりの作家や作品の展示が多い

博物館

川崎市ゆかりの文化財や資料の展示が最も多く、参加体験型の展示、話題性のある展示、体感型の手法を用いた展示、博物館・美術館連動展示と続きます。

【問】博物館について、どのような展示があると良いと思いますか？

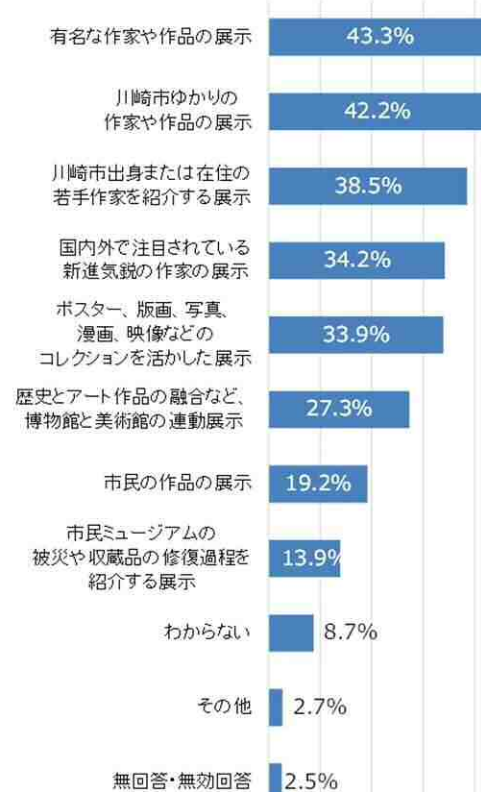


「その他」の自由回答（全111件）では、子どもが楽しめる展示（19件）や川崎の歴史、川崎ならではの展示（15件）の回答があった一方、必要を感じないという回答（5件）もありました。

美術館

有名な作家や作品の展示が最も多く、川崎市ゆかりの作家や作品、川崎市出身または在住の若手作家の展示が続きます。新進気鋭の作家やコレクションを活かした展示、歴史とアート作品の融合は若い層で多い結果となっています。

【問】美術館について、どのような展示があると良いと思いますか？



「その他」の自由回答（全49件）では、川崎に関連があるもの（4件）、子どもたちの作品（2件）などの回答がありました。

博物館は「川崎の近・現代」が多く、
美術館は「絵画・彫刻・陶芸」「川崎市ゆかりの作家や作品」が多い

博物館

「川崎市の近・現代」が最も多く、川崎市の中世・近世、原始・古代、民俗と続いています。「有名な文化財・資料」は7選択肢中5番目となっています。

【問】博物館について、どのような資料の収集に力を入れるべきだと思いますか？

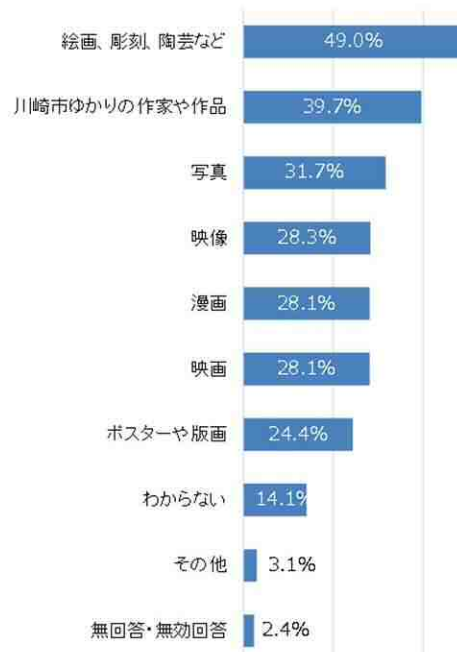


「その他」の自由回答（全91件）では、川崎に関する資料の具体的な回答（26件）が多くありました。「川崎にこだわらなくてよい」（7件）「川崎市も現在、未来構想に関するもの」（6件）「子どもが学びにつながるもの」（5件）などの回答がありました。

美術館

絵画・彫刻・陶芸が最も多く、次いで川崎市ゆかりの作家や作品が続いています。写真、漫画、映画、映像は概ね30%前後となっています。写真や漫画は10～20歳代での回答率が37～40%と、他の年齢に比べて多くなっています。

【問】美術館について、どのような資料の収集に力を入れるべきだと思いますか？



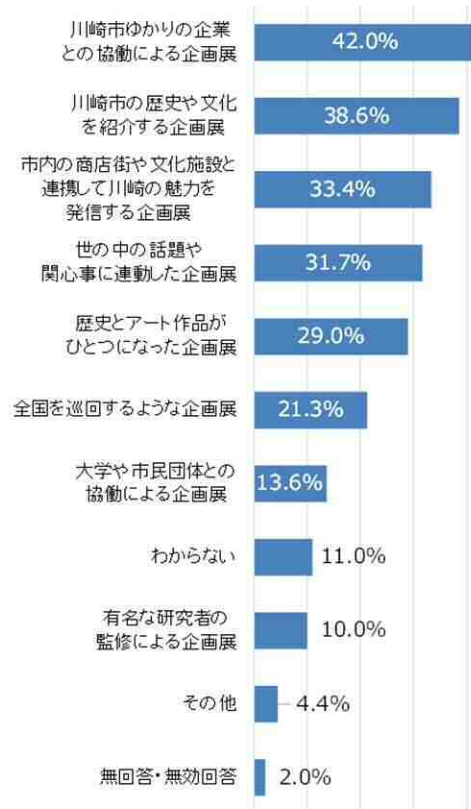
「その他」の自由回答（全57件）では、「川崎に関するもの」（9件）や「ある程度有名な作品」（5件）の回答がある一方で、「収集する必要はない」（8件）といった回答もありました。

博物館・美術館ともに川崎市ゆかりのテーマによる企画展が最も多く、美術館では有名人やタレント、新進気鋭の若手作家などの回答も多い

博物館

川崎市ゆかりの企業との協働による企画展が最も多く、次いで川崎の歴史や文化を紹介する企画展、商店街・文化施設連携、世の中の話題に対応したテーマ、歴史とアート作品が一つになった企画展へと続いています。

【問】博物館について、どのような企画展があると良いと思いますか？

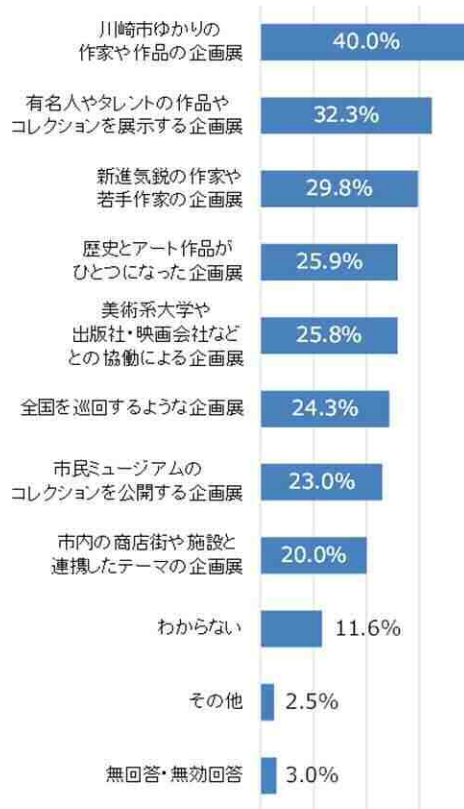


「その他」の自由回答（全81件）では、話題のものや食べ物、映画などの川崎市以外のテーマ（25件）や、川崎市の歴史や、ゆかりの人や産業に関するものを具体的に挙げたもの（16件）、子ども向けの企画（5件）などがありました。

美術館

川崎市ゆかりの作家や作品の企画展が最も多く、次いで有名人やタレント関連の企画展、新進気鋭の作家と続いています。年齢や関心度により、あると良いと思う企画展に違いが見られます。

【問】美術館について、どのような企画展があると良いと思いますか？



「その他」の自由回答（全47件）では、市民参加型の企画展（5件）や川崎市に関する企画展（3件）などがありました。

博物館・美術館ともに子ども向けのプログラムが最も多く、
調査・研究・資料収集、市民向けプログラムが上位に

博物館

子ども向けのプログラムが最も多く、川崎市の歴史・文化・民俗の調査・研究・資料収集、川崎市ゆかりの企業と連携した展示やイベントと続いています。年齢により回答率や順位に違いがあります。

【問】博物館について、どのような活動に力を入れるべきだと思いますか？



「その他」の自由回答（全71件）では、子ども向けの企画やプログラム（11件）の他、市民ミュージアムの広報・宣伝（6件）、地元との連携企画（3件）などがありました。

美術館

子ども向けのプログラムが最も多く、次いで市民向けのプログラム、川崎市ゆかりの作家に関する調査・研究・資料収集と続いています。年齢や関心度で回答率に違いがあります。

【問】美術館について、どのような活動に力を入れるべきだと思いますか？



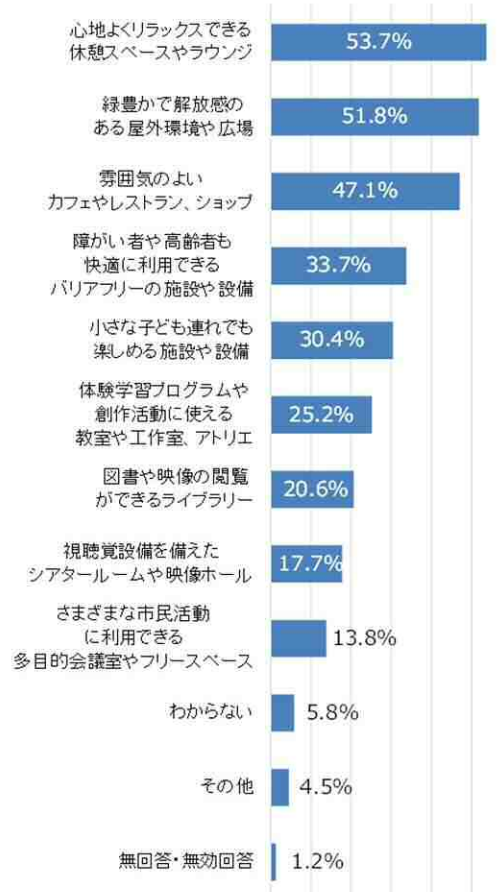
「その他」の自由回答（全47件）では、PR活動や情報発信に関するもの（5件）や子どもがアートに触れる体験（3件）などがありました。

回答者のおよそ半数が、心地よくリラックスできる休憩スペース、
緑豊かで解放感のある屋外環境や広場、
雰囲気の良いカフェやレストラン、ショップ等と回答

心地よくリラックスできるスペースが53.7%
で最も多く、次いで緑豊かで解放感のある環
境51.8%、カフェ・レストラン・ショップ
47.1%と、回答者のおよそ半数がこれらの選
択肢を挙げています。

小さな子ども連れでも楽しめる施設、体験学
習プログラムや創作活動に使える教室や工作
室、アトリエ等は回答者の年齢により、大き
な違いがあります。

【問】展示室以外で、
どのような機能があると良いと思いますか？

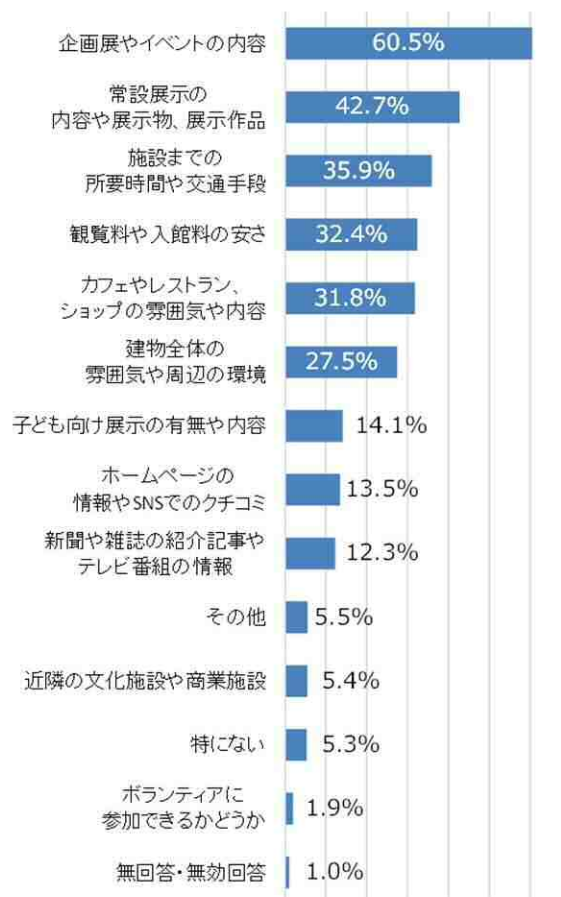


「その他」の自由回答（全82件）では、屋外展示がある自然を感じるくつろげる場所などの屋外の活用（9件）、普段から気軽に利用できるカフェレストラン（5件）、子ども連れも楽しめるスペース（3件）の他、災害時の避難場所（3件）といった意見もありました。

企画展やイベント、常設展示の内容に次いで、
交通アクセス、料金、カフェ・レストラン・ショップの雰囲気や内容を重視

企画展やイベントの内容が約60%で最も多く、常設展示の内容が約43%となっています。次いで施設までの所要時間や交通手段（交通アクセス）、観覧料や入館料の安さ、カフェやレストラン、ショップの雰囲気や内容が30%台で続いています。

【問】博物館・美術館に行くかどうか決めるとしたら、
あなたは何を重視しますか？



「その他」の自由回答（全102件）では、目玉となる有名な作品、見たい作品があるかどうか（10件）の他、行きやすいかどうか（7件）、駐車場があるかどうか（5件）、子どもが楽しめるかどうか（3件）などの回答がありました。

展示やイベントの具体的な提案に加えて、
施設の環境や設備、アクセスや利便性の高い立地、積極的な情報発信など
幅広い視点からの意見・アイデアがありました

「中学生・高校生の皆さんが、もっと博物館・美術館に行くようにするには、何があればよいと思いますか？」と聞いたところ、全200件の自由回答がありました。
その内容は、「展示やイベント」の具体的な内容のほか、施設の「環境・設備」、「立地」、「PR活動・情報発信」、「サービス」など、多岐にわたって具体的な提案がありました。

【問】中学生・高校生の皆さんが、もっと博物館・美術館に行くようにするには、
何があればよいと思いますか？



※複数の内容を含む回答があるため件数合計は240となっています。

展示・イベント

- ・体験できるもの・・・24件
- ・話題のものや流行りのもの・・・16件
- ・有名な資料や作品に関するもの・・・15件
- ・写真映えのするもの・・・10件
- ・子どもも楽しめるもの・・・6件
- ・時代の最先端を感じさせるもの・・・6件
- ・アニメや漫画、ゲームを扱ったもの・・・6件

環境・設備

- ・リラックスできる空間や休憩スペース・・・17件
- ・誰でも気軽に入りやすい雰囲気のある空間・・・15件
- ・レストランやカフェ・・・12件
- ・勉強ができる空間・・・7件
- ・公園や緑のある空間・・・4件

立地

- ・アクセスのよい場所にあるとよい・・・8件
- ・他の目的のついでに利用できるとよい・・・5件

PR活動・情報発信

- ・ネットやSNS、スマホとの連動が必要・・・8件
- ・地域に対する情報発信・PRを増やした方がよい・・・5件
- ・学校に対する情報発信・PRを増やした方がよい・・・5件
- ・学校の授業や行事で利用する機会があると行きやすい・・・5件

サービス

- ・入館料を安くしてほしい・・・9件

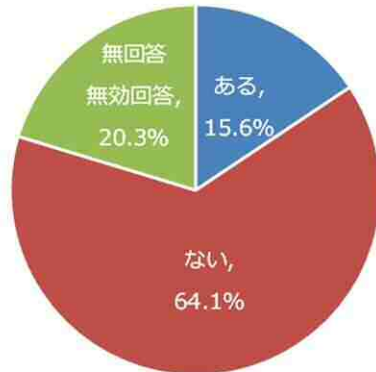
その他

- ・川崎で有名な画家さんの絵の展示や、若手作家の紹介の展示などは興味があります。
- ・現代アートの展示を期待します。
- ・歴史的にすごい展示を見るのも好きですが、現代風のこの時代に生まれたアート（新しいアート）も沢山知りたいです。
- ・様々な市民団体が集まって、行うイベントやお祭りの様なもの。
- ・地域参加型イベント
- ・座って絵をかいたりできるような場所をつくるのと、子どもたちのしめるような企画を自由スペースにおいておくなど。
- ・wifiが使える
- ・バリアフリーに特化した構造又は展示、年齢や障がいの有無に関わらず楽しめる場所であってほしいと思います。
- ・麻生区などからだと行くのに小田急線から乗り変えて行かなければならないため、市民ミュージアムにだけ、という理由で行くのはむずかしいのではないかと思います。なので、緑の多い広場や大きな図書館など他の利用目的で行けるような施設があるといいと思う。
- ・自分の作品が有名、著名なアーティスト、芸術家の目に止まって、創作や、その後の活動に関わってくれたり、サポートしてくれたり、SNSとかで紹介してくれたら嬉しいです。

**博物館や美術館を利用する際に「困ったことがある」人は約16%
「あれば良いと思う」ものは休憩スペース、多目的トイレ、来館者サービス等**

利用する際に困ったことの内容では、迷子になる、休憩スペースがない、トイレや動線の問題を挙げる回答があり、「あれば良いと思う」ものでは、休憩スペース、多目的トイレ、飲食スペースなどの環境・設備と来館者サービスについての回答がありました。

【問】博物館・美術館を利用される際に困ったことはありますか。
(回答者数合計 64)



【問】（困ったことは）どんなことですか？
(自由回答 全10件)

迷子になる

- ・回わってるあいだに迷子になるか
- ・まわる場所がわからず、迷子になりそう
- ・どこで何をやっているか、わかりやすくしてほしい

休憩スペースがない

- ・イスなど休憩スペースが少ないこと
- ・疲れた時に、休めるスペースがたくさんほしい

トイレや動線の問題

- ・トイレの位置は重要
- ・自動販売機の前は広くスペースとってほしい
- ・車イスでの移動が楽な方がいい
- ・車イス用トイレの場所
- ・段差があってつまずいたり移動が気軽にできず遠回りすることがあった

その他

- ・静かにできない人（自閉症など）をつれていけない

【問】あれば良いと思う施設や設備、サービスがあれば教えてください（自由回答 全22件）

環境・設備

- ・休憩スペース・・・6件
- ・多目的トイレ・・・4件
- ・飲食スペース・・・4件
- ・大きめのエレベーター
- ・外の緑が見えたり開放感があること
- ・場所により、全くの音無しより、BGMを流して頂けたら、緊張も休らげる様な気がする。
- ・ベビールームとか作ってほしいです
- ・こどものあそび所も作ると、こどもが、さわりだりしても大丈夫だと思います

来館者サービス（解説設備等）

- ・VRの活用してほしい
- ・音声の解説
- ・さわるとスイッチが入って説明してくれる
- ・イヤホン？みたいなものを聞いて、より良くわかるようにしてくれたりとか？

来館者サービス（案内）

- ・場所をあんないしてくれる人が、ほしいです
- ・子どもがまよわないあんない
- ・ついて案内してくれる人がいるといい

立地・来館手段

- ・公共交通機関をすぐに利用できる場所

その他

- ・自分の作った作品をただで出してほしいです。中学校の美術部とか高校の美術部の作品だけでも出してほしいです（無料で）
- ・身近なもののイベント、などあるといい